

移住・起業家 インタビュー

◆ 岐阜市 川原町Gallery Sagan 大亦 淑子さん



展示会にて：右が大亦さん



◆ どんなお店をやっているか、どんなところにお店があるか？

アート作品を展示するギャラリーとして、作家さんから委託を受けて作品の展示・紹介・販売をしています。

また書棚のある部屋で、本を手にとりじっくりと寛いでもらえるようにブックカフェを併設しています。アーティストの活動を応援し、発表の場を提供したいという考えのもとで、使いやすい条件で気軽に相談してもらえるギャラリーを目指しています。

ギャラリーのある川原町は、かつて長良川の水運を利用した川湊として栄えた町で、格子造りの町屋や蔵のある古い街並みが残っています。歴史的な町屋は、今も人が暮らす生きた古民家で、かつての雰囲気は保たれていて景観重要建造物に指定されています。

初めて川原町を散策した時、こんな町に住むことができればいいだろうなと夢のようなことを感じました。何度か訪れているうちに、この町ならこの土地にふさわしい文化的な活動ができるのではないかと確信を持ちました。

文化的な活動を通して人との交流を活性化し、微力ながら地域の町づくりの一翼を担えるような活動をしたいと考えました。



◆ 起業の経緯と場所は、どうやって決めたか？

東京で40年近く書籍の編集、校正校閲の仕事をしていました。書籍の出版の仕事は、興味が尽きない魅力的な仕事でしたが、いままで仕事で経験したことも活かして、なおかつ微力でも何か役に立つことがしたいと考えるようになって、ギャラリーを経営することを目標に土地を探し始めました。

編集の仕事をしてながら、少しずつ目標の実現に向けて準備をしました。

WEBで土地や中古物件の情報を見て、週末に実際の土地などを見て回ることが一年余り続いたある時、いつものように川原町を歩いていて、川原町の西端に売り家を発見しました。岐阜城を臨む金華山の麓、歴史のある町の片隅にギャラリーを開く理想の家を見つけたのでした。自分の一番気に入った町に中古の売り家を見つけたことは、ほんとうに幸運でした。



◆ 活用された補助金は？

「岐阜県地域課題型起業支援金」を利用しましたが、補助の対象となる経費と対象とならない経費を整理し証拠書類を準備して申請書を作成するのが大変でした。慣れない開業の初年度ですが、最初から帳簿を付けて経理処理の書類を整理しておかなかったことは、大きな反省点だと思っています。

「起業支援金」の交付承認に合わせて、岐阜市の「移住支援金」の給付を受けることができました。

この二つの給付は、起業初年度の経費の補助としてとても助かりました。

◆ 移住から起業までの苦労した点、準備しておいたほうがいいこと

岐阜市に移住してからギャラリー開業まで約5カ月でしたが、毎日開業の準備で休むことがありませんでした。開業後も経営については、すべて初めての経験ばかりでしたので、経費などの書類の整理と帳簿記載は後回しになってしまいました。

けれど、交付金申請や確定申告の時期になって慌てることになるので、経営の帳簿作成などは早い時期に指導を受け準備しておくことが大切だと思いました。

◆ 地方での起業を検討している方へのアドバイス

まずは、自分に合う土地を、あるいは場所を納得いくまで時間をかけて探すことが大事だと思います。そして移住した後に大切なのは、人とのつながりです。

知り合いが一人もいないところから始めたのですが、知り合った人が人を呼んでくださり、そこから人の輪ができ、広がっていきました。人と人のつながりが、こんなにも大事だということを岐阜に来て初めて実感しました。どのような経営であっても、まずは地域の人とのつながりを活動の中心に考えて行動することが、最も大切だと思います。そのための行動は惜しまないでください。

地域の情報を教えてください、仕事を応援してください、人を紹介してください、多くの方に支えられて続けてこられました。地域の人々への信頼と感謝が最も大事だと思っています。

東京圏から移住して創業した方については

移住支援金(世帯で最大100万円、単身60万円)を、転入先の市町村から受給することができます。

※市町村によって支援金額や要件等が異なる場合がありますので、詳しくは移住(検討)先の市町村移住定住担当窓口へお問い合わせください